

平成 28 年 知床におけるヒグマに関する観光客アンケート結果

北海道大学大学院農学研究院

愛甲哲也・庄子康

・方法

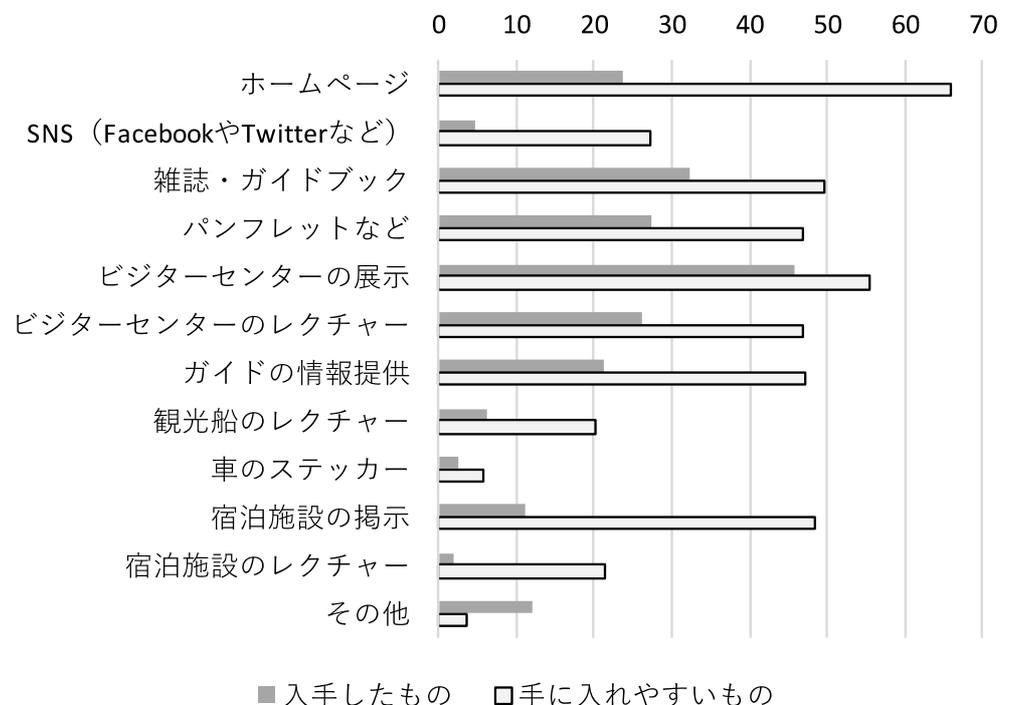
2016年7月、10月に、観光客1000人に道の駅うとろ、遺産センター、自然センターで配布。有効回答数464通。

・結果

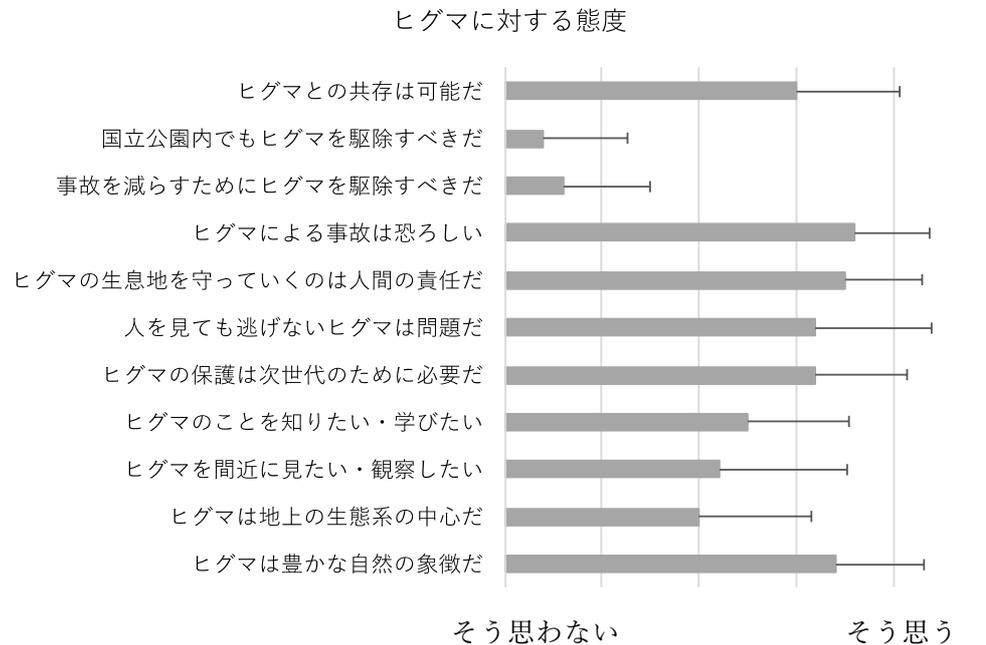
野生のヒグマを見たことがないものは61%、今回の訪問中にヒグマを見た回答者は22%。場所としては、車・バスの窓からが最も多く、次が観光船（ウトロ～知床岬）。夏に多く、秋は少なかった。

ヒグマに関する情報は、ビジターセンターなど、雑誌・ガイドブック、ホームページ、パンフレット、レクチャーが多かった。手に入れやすい情報提供としては、ホームページ、ガイドの情報提供、宿泊施設の掲示などが望まれている。

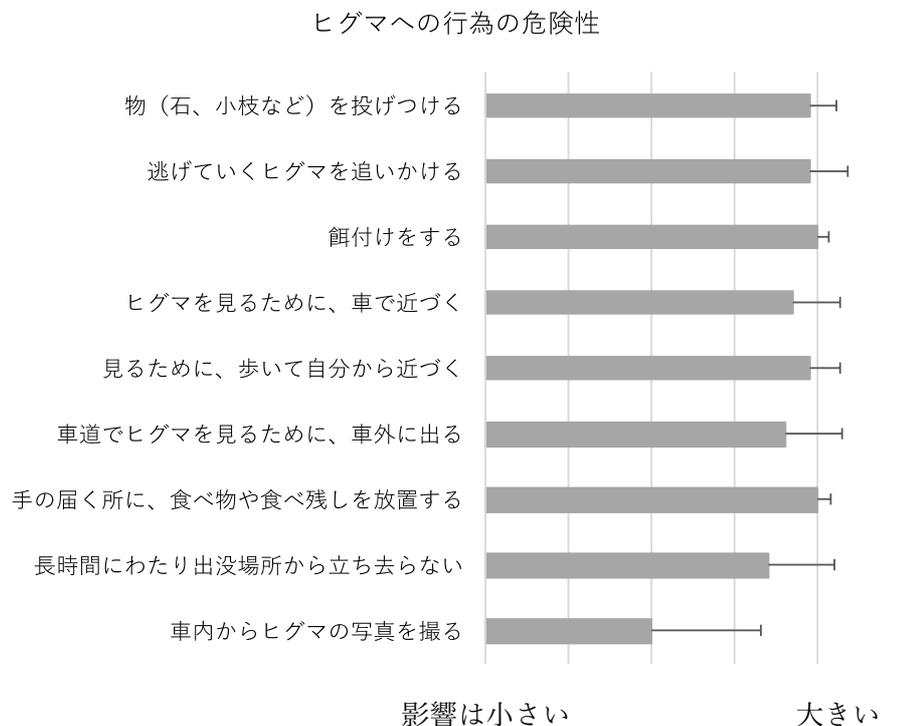
ヒグマに関する情報源(%)



ヒグマの重要性、危険性の認識はあるが、駆除には否定的。項目によっては、標準偏差が大きく、回答にばらつきのみられるものも少なくない。

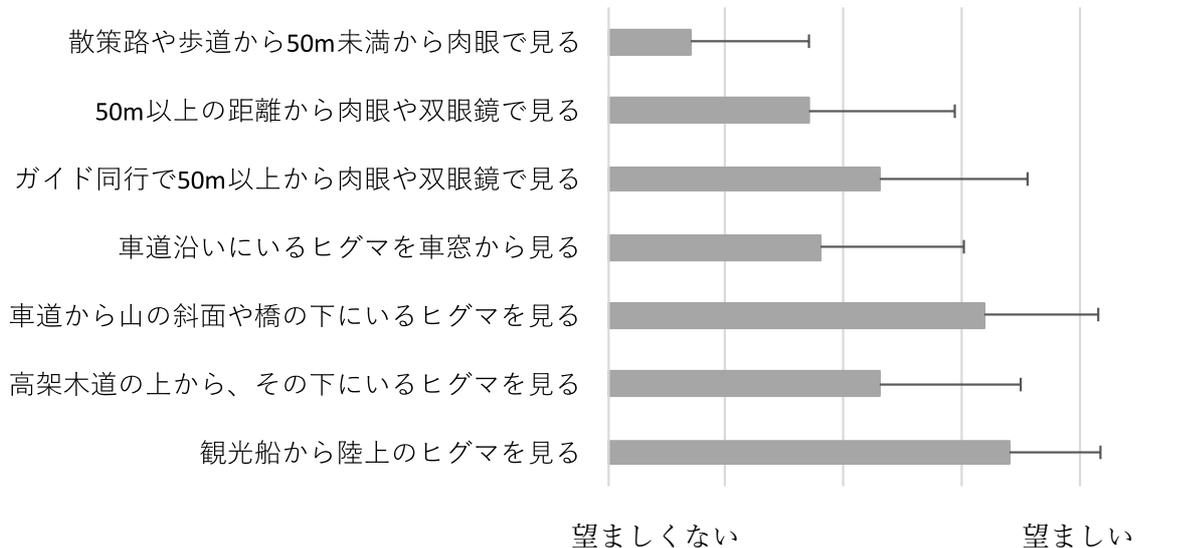


人間の行為の危険性について、ほとんどは高く認識されていたが、出没場所にいつづけることについてはやや低く、車内からの写真撮影については、回答にばらつきがみられた。



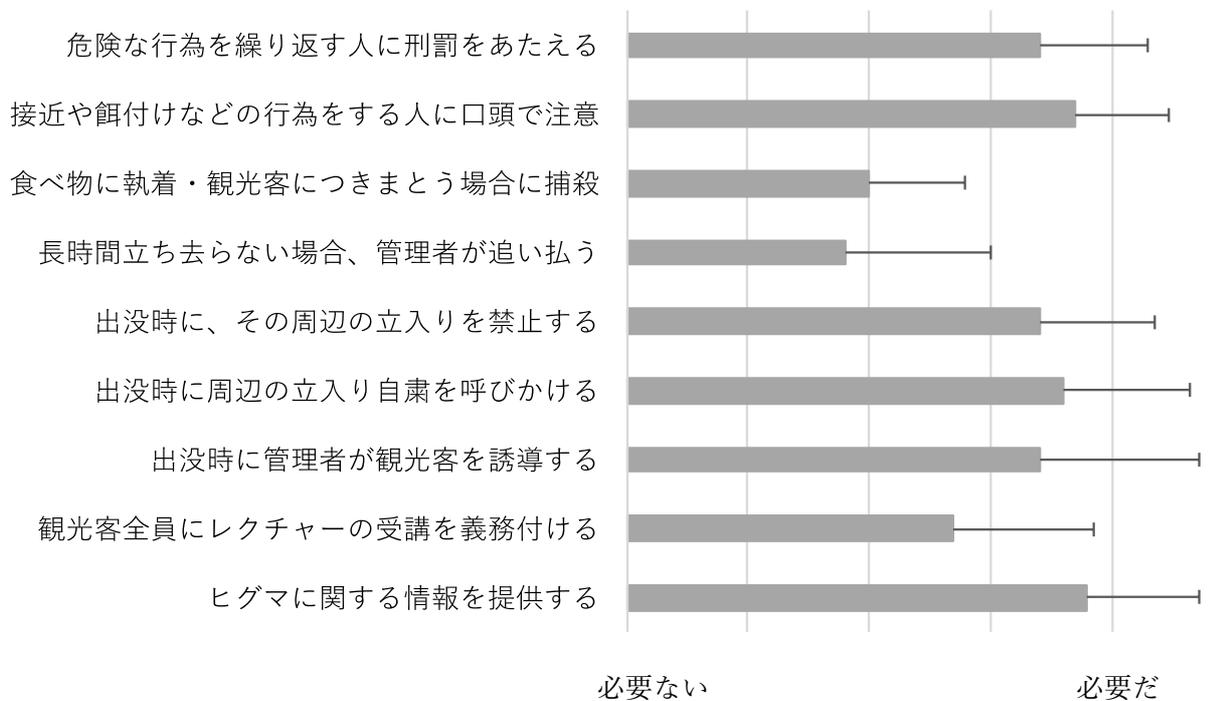
ヒグマを観察するいくつかのシナリオについては、距離が近くなるほど望ましくないと認識されているが、車道沿いのヒグマを見ることをやや望ましいとする回答者もいる。

ヒグマとの望ましい距離



ヒグマと人間の軋轢に対して、国立公園内でとられる対策については、全員へのレクチャーの義務づけ、追い払い、捕殺などは賛成の度合いが少ない。

対策の望ましさ



以上の結果を、属性や態度の違いなどとの関連について、分析を進めている。